



平成 25 年度 新東名高速道路建設にともなう調査

# 伊勢原市 No.163 遺跡 現場見学会

主催：公益財団法人かながわ考古学財団  
共催：伊勢原市教育委員会



地域の特性を活かした  
史跡等総合活用支援推進事業

## 中世の石敷道路状遺構を発見



▲伊勢原市 No.163 遺跡から伊勢原市街（南東方向）を望む

伊勢原市 No.163 遺跡は小田急線伊勢原駅の北西約 3.6km、伊勢原市上粕屋に位置します。この遺跡は新東名高速道路建設に際して新たに発見された遺跡で、2013 年 5 月より公益財団法人かながわ考古学財団が発掘調査を実施しています。

現在、中世から近世を中心とする遺構と遺物が発見されています。とりわけ注目に値するのが石敷道路状遺構（以下、「道路跡」と表記）の発見で、大山山麓に存在した寺社の参道ではないかと推測されます。出土した陶磁器類から、この道路跡は鎌倉時代頃に遡るものと考えられます。鎌倉時代においてこのような石敷の構造をもつ道路の事例は県内でも発見例が少なく、非常に珍しいものです。この時代の伊勢原地域はまだ謎に包まれた部分も多く、県内の中世史を考える上でも大変貴重な発見と言えます。

### 発見された遺構と遺物

遺構

中・近世：水田跡  
中世：石敷道路状遺構、  
石組遺構（水田跡？）

遺物

近世：陶磁器、鉄製品、石製品  
中世：陶磁器、かわらけ、銭貨、馬歯  
古代：土器  
縄文時代：土器、石器（剥片）

およその年代

35000年前 15000年前 2500年前 1700年前 1300年前 800年前 400年前 1500年前

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

古代

中世

近世

今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています。

### 周辺の中・近世遺跡 ～道路の行く先は？～

今回発見された道路跡が、誰がどのような目的で築いたものかは、まだよく分かっておらず、今後の研究課題となっています。

中世の伊勢原とゆかりのある有力者としては、扇谷上杉氏が 15 世紀には居館を設けていたことが知られていますが、この道路跡はそれ以前の鎌倉時代に築かれたものと見られます。

鎌倉時代の伊勢原には幕府や北条氏一族と少なからぬ結びつきのあったことが知られています。大山寺や日向山霊山寺には源頼朝や北条政子がたびたび参拝や祈願を行っていましたが、鎌倉時代末期には伊勢原一帯は北条一門の大仏氏の所領となっていました。

伊勢原市 No.163 遺跡からほど近い浄業寺跡は、北条政子が源頼朝を弔うために建立したと伝えられる寺院です。また、伊勢原市 No.163 遺跡から川を挟んですぐ西側の段丘上には子易・大坪遺跡があり、複数の掘立柱建物から成る 13～14 世紀頃の屋敷跡が発見されています。屋敷の主はまだ特定されていませんが、その規模や出土した遺物から、ある程度有力な人物がこの地に屋敷を構えていたことが推定されています。

今回発見された道路跡は、こうしたこの地域にゆかりのある有力者により築かれたものでしょう。

この道路の行く先についてもいくつかの仮説が考えられます。その 1 つは大山参詣のための道という説です。なお、近世の大山街道は現在の県道 611 号線付近を通っており、その一部が上粕屋・石倉中遺跡で見つかっています。また、子易・大坪遺跡の西には現在調査中の子易・中川原遺跡があります。この遺跡には寺院跡があり、まだ正確にいつのものかは不明ですが参道と考えられる石組の階段が出土しています。今回発見された道路跡がそのまま西に伸び、子易・大坪遺跡の屋敷地わきを通って、この寺院跡に向かっていったという可能性も考えられます。



▲伊勢原市 No.163 遺跡周辺の遺跡



▲子易・大坪遺跡の中世屋敷跡



新東名高速道路建設にともなう調査成果

伊勢原市 No.163 遺跡  
2013 年 9 月 7 日

公益財団法人かながわ考古学財団  
〒232-0033 神奈川県横浜市南区中村町 3-191-1  
Tel : 045-252-8689(代) URL : <http://kaf.or.jp>

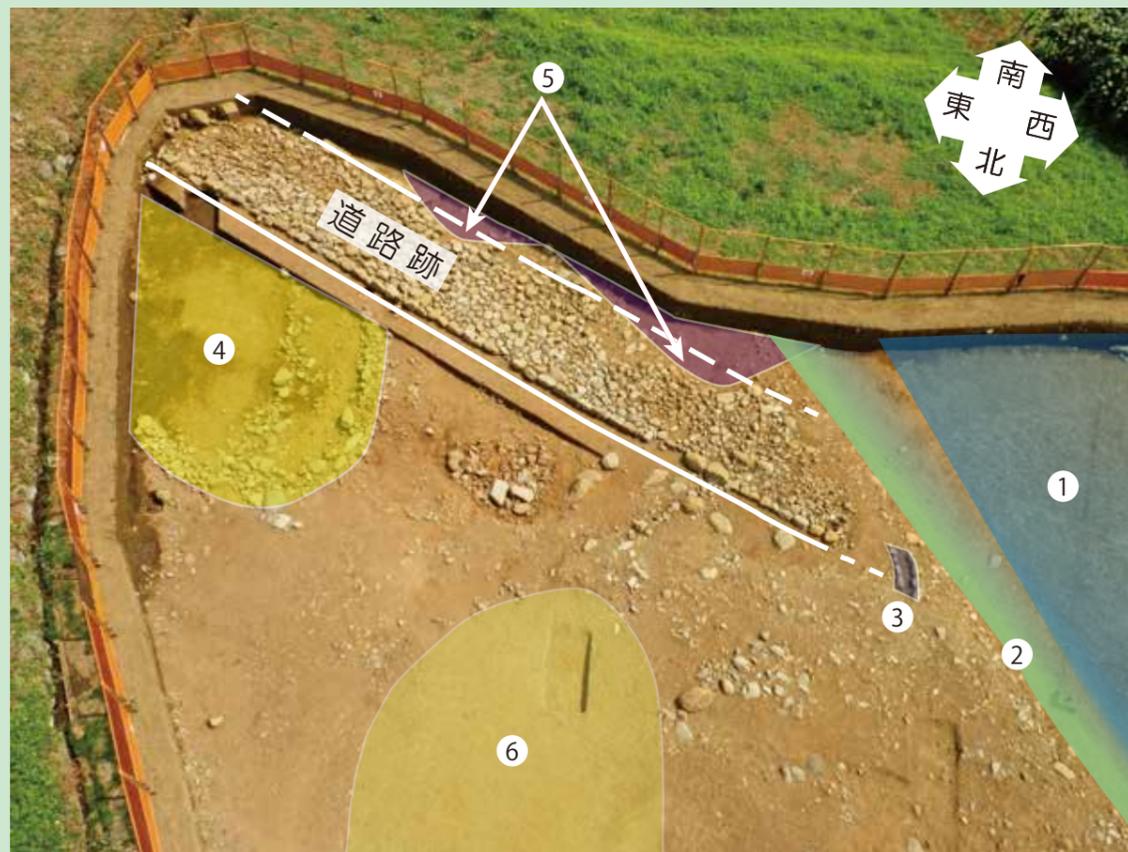
## 発掘の経過と道路跡の構造



大形の礫で縁取り、その間に突き固められた砂利が敷かれた構造物が出土しました。



表面の突き固められた砂利を外すと、縁石の間にも礫が敷き詰められていました。

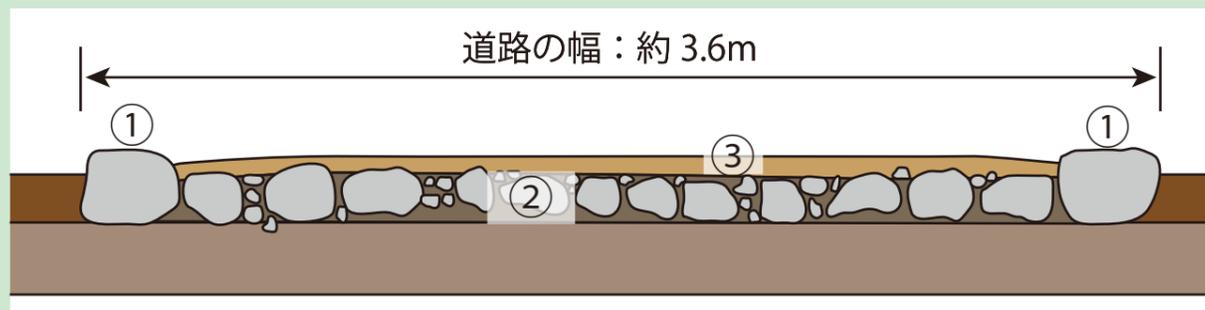


## 道路跡と 周辺の遺構

- ①河川跡  
河床礫や砂が堆積。道路が存在した頃の旧河川の流路の可能性がある。
- ②水田跡  
道路跡の石組を斜めにカットする形で造成されている。
- ③取水口跡？  
2列の平行する石組。  
②の水田に水を引き込む水口の可能性がある。
- ④石組遺構(水田跡？)  
石列の囲いが2つあり、水田の区画の可能性がある。
- ⑤水田跡  
道路跡の石組を一部を壊して造成されている。
- ⑥水田跡  
楕円形の区画を呈する。

道路跡は幅 3.6m、延長約 24m にわたって見つかりました。東西方向から少し傾いた向きに伸びています。この道路跡を西に向かうと昔の河川の跡(①)にぶつかります。この川が道路のあった頃にここを流れていたとすれば、橋などが架けられていたと考えられますが、まだはっきりしたことは分かっていません。

道路跡の上から 13～14 世紀頃の土器が出土しているため、道路の築造年代はそれ以前にさかのぼるものと考えられます。その後、道路が使われなくなると、遺跡の周辺は早い段階から水田になっていったようです。②の水田は道路の一部を壊すかたちで作られています。この水田からは 14 世紀頃の土器が出土しており、この頃には道路は使われなくなっていたようです。



▲道路跡の横断面(模式図)

以上の調査の結果、この道路跡は図のような構造となっていることが分かりました。

- ①道路の縁石：径 50cm 超の巨礫を並べる。
- ②道路の下部構造：縁石の間に径 20～30cm 程度の礫を敷き詰め、さらに隙間を小石で埋める。
- ③道路の上部構造：砂利を敷き、突き固める。

## 水田跡



- ← 現代の水田面
- ← 中・近世の水田面
- ◀ 水田跡の土層断面

道路が使われなくなった後、遺跡は繰り返し水田として利用されていました。水田は水が張られることから鉄分が沈殿するため、水田として利用されていた面を見つけることができます。この遺跡では地中に 3～4 段階の中・近世の水田面が見つっています。

## 道路跡の出土遺物

数は多くありませんが、13～14 世紀の遺物が出土しました。中には当時は高級品の中国製の白磁の破片も混じっています。



▲緑釉の盤または洗  
中国泉州産・13～14 世紀



▲白磁の壺  
中国産・13 世紀頃

## 周辺の水田跡の出土遺物

道路跡よりも新しい 14～15 世紀の土器の破片が出土しています。北宋銭は铸造年よりかなり後になっても輸入・流通していたため、新しい時代の遺跡からも出土します。



▲青磁の皿 中国龍泉窯産  
14 世紀後半～15 世紀前半



▲こね鉢  
国産・14 世紀前半



▲皇宋通宝  
北宋・1039 年初鑄



▲熙寧元宝  
北宋・1068 年初鑄



▲治平元宝  
北宋・1064 年初鑄



▲大觀通宝  
北宋・1107 年初鑄